

田原市議会傍聴記

①

地方政治
クリエイト
伊藤 秀昭

田原市議会の本会議一般質問は12月3日、4日と行われ8人が登壇した。

◆切れ目のない子育て支援
トップバッターで登壇した辻史子氏(公明)の質問に、健康福祉部長は「産後ケア事業については、渥美病院で受け入れも含めて検討していく」とし、特に「子育て世代包括支援センターの整備について19年後までに母子保健型の機能拠

点を市役所に設置し、田原と渥美、さらにもう1カ所増やして3カ所の子育て支援センターと連携して専属ス

長神隆士氏(自民)は保育園や小学校が統合されて廃園や廃校ができ、商店街での空き施設、地域における空き家も増えてきている。これらを活用して元気な高齢者の活躍の場として活用できないかと問題提起した。

都市建設部長は統合された園や学校は用途に制限があることや、空き家を賃す側にすれば「そこまでは投資ができない」などの問題もあり、難しい課題が多いことを列挙した。

長神氏が指摘したように、地方創生の総合戦略でも空き家を活用した定住戦略を推奨しており、一層の取り組みが必要ではないのか。

◆スポーツ振興
小川貴夫氏(同)は1年前に質問した項目についての検討経過を聞いた。

教育部長は「スポーツ少年団の補助金の拡大と指導者の負担軽減については、今年度予算で対応している。中学生を対象にしたスポーツ教室については行った

アンケートから教室開催の参考にしたい」などと答えた。小川氏はスポーツ課が設立されて1年半が経過してのスポーツ振興の課題について質問。同部長は文科省の平均値と比べて田原市の成人の

計画策定委員に高校の関係者が入っていないことを問題にし、市内3高校の意見交換会もあるからとする教育部長の答弁にも食い下がったが、その必要性をきちんと議論すべきでなかったか。

学力テストへの取り組みに熱い議論



杉浦氏は「教育はすぐに結果が出るものではない」として長期展望に立った取り組みを要請し、全国一位の秋田県が詰め込み型でなく、探究型の授業を行っていることを大いに学ばべきと強調し、秋田県と愛知県の差はボトムアップ(底上げ)にあるとして、家庭学習のあり方などにについても言及した。

◆学力テスト
杉浦文平氏(無所属)は本年度の全国学力テストにおいて愛知県は惨憺(さんたん)たる有様であり、田原市の平均点が県平均点よりも下位であり、県が最下位である一因ともい